

部署横断的連携と活動により、新しいニーズに対応した保健活動確立のための研究
～健康日本 21（第 2 次）の推進・地域包括ケアの推進～

全国保健師長会健康日本 21 推進に関する特別委員会

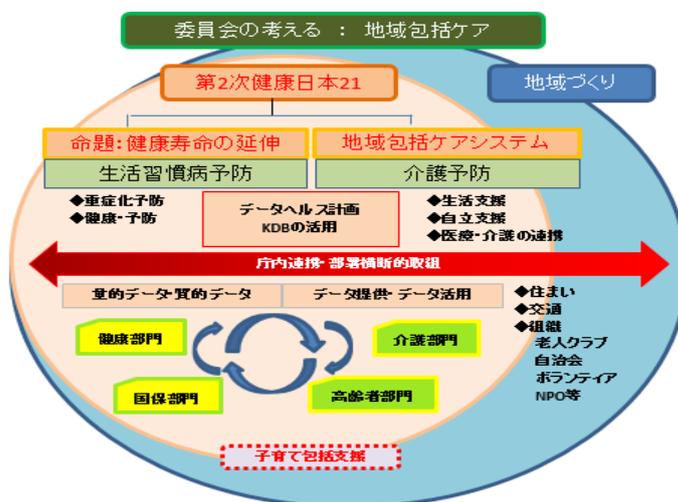
1 はじめに

全国保健師長会健康日本 21 推進に関する特別委員会では、健康日本 21（第 2 次）の目指す健康寿命の延伸と健康格差の縮小を実現するために、健康増進法や介護保険法、高齢者の医療の確保に関する法律等、保健・保険・介護・福祉等の法律が大きく変わる中で求められる保健師活動について検討することとした。健康日本 21 の推進には保健・医療・福祉の連携が不可欠であり、保健師の分散配置が進む中においても、保健と福祉の連携を総合的に捉え、部署横断的連携を行うことで住民のライフステージを分断しない保健師活動が重要と考えた。

そこで、健康日本 21 第 2 次計画の推進（ヘルスプロモーション）と地域包括ケアシステムの構築（介護予防）が有機的に連携する事が健康寿命の延伸につながると考え、データヘルス計画におけるデータ分析とデータの可視化に基づいた、住民や医療・福祉等の関係機関、学校、職域、地域で健康づくりを推進するボランティア、地区組織団体等と連携した保健活動の確立について取組むこととした。

2 目的

データヘルス計画に基づく健康寿命の延伸と医療費の適正化、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を推進していく過程において、市町村の各部署に配属されている保健師による部署横断的連携を促進するために、①各部門の保健師が果たしている役割や工夫、②具体的なデータのやり取りの方法、③その他各部門の連携を促進するための仕組みや工夫、または連携を阻害する課題を明らかにし、各市町村において、効果的、効率的な健康づくりや介護予防事業の展開を図ることを目的とする。



3 調査方法

(1) 調査対象

全国保健師長会にて公募した3市に、統括的役割を担っている保健師を中心に、保健部門、介護部門、高齢者福祉部門、国保部門の保健師3名以上を対象とした。

(2) 調査方法

フォーカス・グループ・インタビューを実施し、帰納的に分析した。

4 調査結果

(1) 各部署が連携したデータ活用ができている要因

- ①データ活用の目的等を、組織間で共有できる会議の存在がある。
- ②保健師と事務職等における目的の共有化がされている。
- ③保健師間のジョブローテーションが有効に機能し、保健師がお互いの業務を理解できることで組織間の壁が低くなっている。

(2) 連携したデータ活用を阻害する要因

- ①各部署の保健師及び事務職間でデータ活用の目的・意義等の共通認識が不十分なため、目先の業務に追われる現状に埋没する。
- ②各部署間で担当の地域割が異なるとデータ活用が難しく、住民からも地域に責任をもつ担当者が見えにくい。

5 考察

健康日本 21（第2次）の推進は、全世代を対象にした地域包括ケアシステムの構築が必要となる。地域の健康課題を住民が認識し主体的に行動するためには、データを部署横断的に統合し可視化して住民に提供し、住民が自分たちのデータとして持つことが重要である。部署横断的に統合したデータの作成には、保健師だけでなく事務職等と協働し、組織間でデータ活用の意義の共通認識及び協働体制構築が重要であり、それらは部署横断的な会議等を通じて醸成されている。

保健師には、個人の行動変容とともに、環境づくりを支援する総合的な取組みが求められている。これら部署横断的な取組みや協働体制構築には、統括保健師の役割も重要である。

6 インタビューを受けた自治体の感想

別紙1

7 おわりに

ご多忙の中、快く調査にご協力いただきました3自治体の皆様に深く感謝申し上げます。

別紙1 インタビューを受けた感想

	A 市	B 市	C 市
ヒアリングを受けて気づいた強み	<ul style="list-style-type: none"> • 部署横断で連携しようとする全庁的な仕組みがある。 • 事務職も保健師も目的の共有ができて協力できる土壌がある。 • 時間内の部署横断会議の開催についても段取りを踏めば開催可能である。 • 部内外各課で把握している情報も事前相談し、依頼文を出す事で得ることが出来る。 • 保健師同士の仲がよい。 • 市長の方針で情報発信が活発であり、事務職への保健師の仕事のアピールにもつながっている。 • 必要な統計情報をデータ化し、統計データの蓄積が円滑にできる環境がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保健師の連絡会議は「市が保健師の専門性をどう生かすか」を組織として考えるチャンス。この会議を有効に活用したい。 • 庁内連携に力を入れており、当課でできることを知ってもらい、何か一緒にできることを模索中。他課との協力関係が少しずつ増え、活動が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域包括ケアシステムの構築については、先駆的に取り組んでいる。 • 各部署でデータの取りまとめができています。 • 自分たちも頑張っているという確信をもてた。 • 現任教育や後輩を育てる取り組みに、前向きな姿勢を持つようになった。
ヒアリングを受けて気づいた弱み	<ul style="list-style-type: none"> • 地区診断について、健康部門・高齢者福祉部門・地域包括支援センターが情報共有や協議する場が必要。 • 地区組織へのデータの提供が少ない。 • 予防事業の連動性に対する確認が弱い。 • 地区担当制が取れる人員配置になっていない。 • 中堅期・管理期保健師の教育プログラム、チェックリストが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「分析や評価」が弱く、それぞれの部署のデータが有効に使えていない。 • 事業を実施することにとらわれ、プランと関連している事に気づけていない。関連づけたり整理できてないことが多い。 • 分散配置により保健部門は中堅不在（産休も）で、新任期を教える人材が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 保健師活動を市民や庁内の職員にうまく発信できていない。

<p>感想他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健事業の担当課と地域包括ケアの担当課で、地区分析する共有の機会をつくりたい。 ・介護予防事業など高齢者部門のデータと保健部門のデータを共有して、市民の予防に向けた意識を高められるような資料を作成し、出前講座等で活用を図ることで、トータルな予防の観点で事業を展開していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護のデータの「分析や評価」を共有し、健康づくりの政策に生かしていくことが今後の課題。 ・他部署の役割を理解するのは必要だが、全体的な共有を図ることも大事だと思った。 ・現状だけを見るのではなく、「今後こうなるといいな」を目指し、関係者間で共有し取組みたい。 ・今取り扱っているデータがどのように読み取られ活用できるのか、様々な視点から見る必要がある。 ・事務職や上司との連携、保健師同士の連携など、どのように共通理解を得ていくのか考え、データを切り取っていきたい。 ・庁内連携した取り組みは、市民の健康的な生活を守る保健師の使命になる。庁内各部門が連携して取り組む必要性を、認識できるような意識醸成をすすめるためのデータ活用見せる化は、最大かつ最優先の課題。 ・専門職としての感覚に技術や知識を加えて、さらに現状を分析する裏づけを得ていきたい。 ・保健師としての考え方や方法で業務を行い、事務職や住民に見せる化することを振り返る機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューにいられた3市の保健師管理職との交流ができ、それぞれの市の取り組みの把握や意見交換ができた。自分たちも頑張っているという確信を持つことができた。 ・人口規模により保健師活動の展開には違いはあるが、保健師の確保や現任教育については同じような課題もあり、3市の取組みが参考になった。そのことで刺激を受け、現任教育や後輩を育てる取り組みに前向きな姿勢を持つようになった。
------------	--	--	--